

漁業管理の工具箱： 現場の創意工夫を活かすしくみ



【研究課題名】

交付金「総合的な管理方策の提案」（平成23～27年度）、
総合地球環境学研究所「地域環境知形成による新たなコモンズの創生
と持続可能な管理」（平成25～28年度）

【実施年度】平成23～28年度

経営経済研究センター 漁業管理グループ

牧野光琢

目 的

持続可能な漁業を実現するために、いろいろな取り組みが行われています。たとえば漁場では、水産資源を守り持続的に利用するための工夫や、無駄を省いて効率的に魚を獲る工夫、港では、おいしい魚を食べてもらうための工夫、陸上では良い魚を適切な値段で売するための工夫、などがあります。日本や世界の様々な工夫の具体例をあつめ、それをわかりやすい形で整理することにより、漁業現場の方々が自ら話し合っって創意工夫し、改善していくためのしくみを作成しました。

方 法

文献レビューや現場調査をおこなって、よりよい漁業を目指した各地の取り組み事例を収集し、それを分類しました。分類の際は、学術的な表現ではなく、現場の漁師さんたちとワークショップをおこない、彼らにとって分かりやすい・伝わりやすい表現や分類法を工夫しました。また、漁師さんや、認知心理学の研究者とも相談しながら、さまざまな取り組みの全体像を一目でイメージできるポンチ絵を作成し、各地の事例をその上に配置することで、現場の漁師さんたちがみんなで議論する際に利用してもらえらる「漁業管理の工具箱」を作成しました。

結果と波及効果

この「漁業管理の工具箱」をつかって、国内の2つの現場の漁師さんたちに議論をしてもらった結果、現場の漁業をより良いものにするためのアイデアが生まれ、みんなで共有することができました。そして、県の水産業普及指導員の方とも連携し、そこで生まれた

アイデアを活かしていくための取り組みについて具体的な議論が始まりました。また、この工具箱の英語版を作成したところ、東南アジア6カ国の行政官が自国の現場の問題を分析し、比較することができました。さらに、私たち研究者がそれまで知らなかった、新たな取り組みや問題意識について、現場の漁師さんから教えていただくことができました。このような作業を続けることにより、今後も「漁業管理の工具箱」を常に改良して、現場のみなさまが使いやすい、より役立つものにしていきたいと思っています。

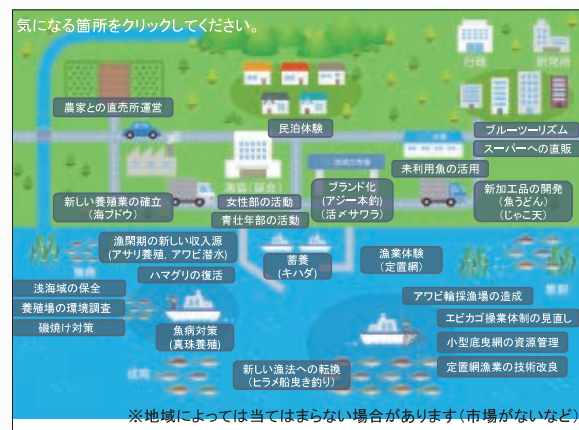


図 漁業管理の工具箱